

令和 8 年度

石巻市教育委員会の活動状況に関する

点検及び評価報告書

(令和 7 年度実績)

令和 8 年 7 月

石巻市教育委員会

令和 8 年度石巻市教育委員会の活動状況に関する点検及び評価の実施について

1 事業の概要及び目的

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条では、「教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。」と規定されております。

また、実施に当たっては、「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るもの。」と規定されております。

このことから、教育委員会の活動状況に関する点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を公表することにより、市民に対する教育行政の説明責任を果たすとともに、適正かつ効率的な教育行政の運営に資することを目的とします。

2 根拠法令

- 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

- 石巻市教育委員会の活動状況に関する点検及び評価実施要綱（平成 20 年石巻市教育委員会訓令第 7 号）

3 令和 8 年度 点検評価実施内容について

(1) 点検・評価の対象事業について

令和 7 年度に実施した第 2 期石巻市教育振興基本計画実施計画に定める 97 の事業のうち、安全に安心して学べる教育環境整備の推進から 1 事業、社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実から 5 事業、いのちを守る防災教育の推進から 1 事業、地域ぐるみで子どもを育てる教育活動の推進から 1 事業、豊かな地域社会を育む生涯学習の推進から 2 事業の合計 10 事業を選定しました。

(2) 点検・評価の方法について

選定した事業について事業調査票を作成し、令和 7 年度における実施状況及び成果の自己点検・評価を行い、この結果を基に学識経験者からの意見聴取を実施し、本報告書を取りまとめました。

本報告書については、市議会第 3 回定例会に提出するとともに、市ホームページに掲載し、公表いたします。

令和 8 年度石巻市教育委員会の活動状況に関する点検及び評価対象事業一覧

番号	事業名	担当課	頁
1	学校危機管理体制整備推進事業	学校安全推進課	9
2	学力向上推進事業（全国学力・学習状況調査結果分析）	学校教育課	1 3
3	情報教育推進事業（学習活動）	学校教育課	1 7
4	石巻市学びサポートセンター事業	学校教育課	2 1
5	幼児教育推進事業	学校教育課 子ども保育課	2 5
6	桜坂高等学校の魅力ある学校づくり事業	学校教育課	2 9
7	防災教育充実事業	学校安全推進課	3 3
8	コミュニティ・スクール推進事業	学校教育課	3 7
9	読書環境整備事業	図書館	4 1
1 0	石巻市博物館企画展・特別展事業	博物館	4 5

令和８年度 石巻市教育委員会の活動状況に関する 点検及び評価説明会・意見聴取会

１ 学識経験者への説明会

- (1) 開催日時 令和８年６月５日（金） 午後１時３０分
- (2) 開催場所 石巻市役所 ４０１会議室
- (3) 事業内容の説明

令和７年度教育委員会の活動状況に関する点検及び評価事業調査票に基づき、担当課・館長から説明を行い、説明に基づいて学識経験者からの質問に対し、回答いたしました。

２ 学識経験者からの意見聴取会

- (1) 開催日時 令和８年７月８日（水） 午後１時
- (2) 開催場所 石巻市防災センター 会議室１
- (3) 学識経験者から、事業ごとに意見を聴取し、その後、全体を通しての総括的意見を聴取いたしました。

３ 学識経験者

氏 名	役 職 等
齊 隆 氏	石巻専修大学人間学部人間教育学科特任教授
湯 目 隆 之 氏	元石巻市立蛇田中学校長
高 橋 由 佳 氏	一般社団法人 イシノマキ・ファーム 代表理事

4 学識経験者からの意見

○ 総括的意見について

齊 隆 氏

評価項目数が10で、評価Aが7、評価Bが3となっており、取組の成果が概ねよいと言えます。予算措置も妥当で、取組ごとに細やかな工夫・配慮がなされ、現場での柔軟な対応によるものと思われます。特に、昨年度の評価がCであった「防災教育充実事業」が評価Aとなったことは、市教育委員会が現場と一体となって取り組んだ成果であり、努力のたまものと言えます。今後の取組の充実が大いに期待されます。

各事業の課題の把握は、その事業目的の本質的な理解を踏まえて、吟味することは当然のことと言えます。そして、解決のために、前例や慣例にとらわれずに、他自治体の情報も参考に、実態を精査し、ICT活用を視野に入れ積極的に取り組んでほしいと思います。

特に、新しいことに挑戦する上では、石巻独自の歴史的・社会的背景を大切にし、豊かな社会生活の実現になるよう、広く市民の意識を高めるものにしてほしいと思います。さらには、そうした取組が他のモデルになることを期待します。

課題解決では、まず、解決の方向性の確認をすることが重要です。そのため、事業ごとの評価において、市民参加の機会を多く設け広く意見を集約するとともに、事業の対象者の特性と市の社会的環境との相互の関連性を理解することが必要です。その上で、実現可能な取組を検討することが大切です。

豊かな石巻市を創る人材育成では、石巻市への定住を目指すことが基盤にあるものの、それだけに限定しない柔軟な取組も議論してほしいと思います。その視点として、どこに住んでいても石巻市のために何が出来るのかを思い描く生活を送る人になるような、働き掛けが大切になると考えます。例えば、裾野を広げるために、コミュニティ・スクール事業を一層充実させていくことが重要です。学区という限定された地域のことにはなりますが、「まちづくりのやりがい」を実感できる機会をぜひ設けてほしいと思います。

湯 目 隆 之 氏

「石巻市教育委員会の活動状況に関する点検及び評価」において、各担当課から10の事業について詳細に説明をいただきました。内訳は、学校安全推進課が2事業、学校教育課が5事業、学校教育課及び子ども保育課が1事業、図書館が1事業、博物館が1事業となっています。

学校安全推進課が実施した2つの事業については、指標である「学校安全マニュアルの点検・見直し」、「避難訓練の実施回数」、「避難訓練における総合評価」のいずれも達成率が100%を超えていることから、高く評価できる結果となりました。しかしながら、「学校安全マニュアルチェックリストを使った評価」では、達成率が92.1%となっており、一部に「B：不適」や「△：不明」といった評価があったのではと考えられ、この点については、今後の改善が求められます。

直近では、東京都北区の小学校で授業中に火災が発生し、児童が音楽室の外のひさし部分に避難するという想定外の災害に見舞われました。火災の原因は教員の考えられない行為によるものと報道されております。このような事例は全くの想定外であります、最低限、チェックリストに記載されている項目については「A：適」と評価されることが必要です。想定外の事態であっても、児童を安全に避難させる体制の重要性が改めて示された事例であり、今後の教訓とすべき出来事であると考えます。

学校教育課の5事業では、総合評価「A」が3事業、総合評価「B」が2事業となっています。総合評価「A」の3事業の内容は、石巻市学びサポートセンター事業、桜坂高等学校の魅力ある学校づくり事業及びコミュニティ・スクール推進事業で、総合評価「B」の2事業は学力向上推進事業、情報教育推進事業となっています。

まず、「石巻市学びサポートセンター事業」についてです。長期的に学校を欠席している児童・生徒に対しては、校内に特別に設置された教室をはじめ、石巻市学びサポートセンターや民間のフリースクールなど、子どもたちの実態に合った多様な居場所や学びの場が近年増加しています。これは大変喜ばしい傾向であり、特に石巻市学びサポートセンターが中心となって、学校やフリースクールとの連携を強化し、子どもたちの自立に向けた支援の取組が成果を上げている点は高く評価できます。

総合評価「B」の2事業は、児童生徒の学力に関わる事業です。全国学力・学習状況調査の正答率を向上させるためには、教育委員会における詳細な結果の分析の中で指摘されている課題に対して、学校が主体となって具体的に改善を図り、児童生徒の学力の向上に結びつけていくことが求められます。

一方、分かる授業づくりやICTを活用した授業の推進といった学校の対策のほかに、学校運営協議会の支援体制の中での学習支援や読み聞かせ会といったイベントの実施など多角的に支援も求めていくことが大切であると考えます。

学校教育課及び子ども保育課の事業では、幼児教育施設と小学校双方の教育内容や幼児の実態の理解が進み、幼児が無理なく教育段階を移行できる環境を整えるための施策が機能しつつあることは評価できると考えます。

図書館及び博物館の事業については、より多くの市民の来館を促すための効果的な広報活動が求められます。令和8年度には、図書館において「ささえあいセンター」の読書環境整備、本館のWi-Fi環境の整備、博物館では特別展「石巻化石トラベラー」の開

催が予定されています。これらの事業については、市報や地元新聞、テレビ、ラジオ、タウン誌、SNSなど様々な広報媒体を活用するとともに、学校教育課を通じて児童生徒や保護者への情報提供をすることも有効であると考えられます。

高 橋 由 佳 氏

市全体として、教育分野に限らず、子どもが安心安全に暮らせる環境整備や、遊びや学びの場の充実といったことが、教育振興基本計画にどのように反映されているのかと思っています。

例えば、本市には児童館がほとんどないため、地域コミュニティの場において、多様な大人や学生などとの交流の場が少なく、子どもを持つ家庭からは、他市へ出かけることが多いとの声も聞かれます。

また、学力については、長年課題になっている全国平均との格差がなぜ起きているのか、その要因について、どのような検証が行われてきたのかを再検証していくことも必要ではないかと考えます。

検証する項目には、インフォーマルな情報共有にとどめていくこともありますが、家庭環境（非課税世帯や生活保護世帯の状況、家族構成など）も起因しているのではないかとこのことを視野に入れることが望まれます。

また、そのような家庭では、塾へ通っているかどうかや学習を見てくれている人がいるかどうかなどの要因も視野に入れ、子どもの学びのサポート体制をセーフティネットと同様に支えていく仕組みもあってよいように感じています。

読書についていえば、不登校の子どもたちにとっても、よりよい影響をもたらしてくれる本もあることから、図書館の立地や図書資料の見直しなども含め、学力向上にもつながるような仕組みやプラットフォームを構築してみてはどうかと考えます。

近年、他自治体では、図書館を地域住民などのコミュニティの場や生涯学習の場として位置づけ、新しい仕組みを取り入れた図書館へと変えている傾向があります。そのような事例も参考にしながら、石巻市においても取り入れていけたらと考えています。

防災教育については、世代間でつながりながら継承していける持続可能な仕組み（副読本の活用の可能性をさらに広げていくことなど）により、石巻になくってはならない教育のシンボルとなるよう、アップデートを重ねながら進めていけるとよいと考えています。そのためにも、有識者メンバーの構成については、幅広い分野から選出するとともに、障害者、子ども、高齢者など、多様な立場の方々を含めた構成で推進していくことを望みます。

石巻は、海や川や山の自然に囲まれた豊かな地域でもあり、食文化の豊かさも市の大きな強みとなっていると思います。

そのような地域で生まれ育ち、学び合う環境に恵まれているからこそ、シビックプライドを持ち、子どもや大人が自信を持って石巻のまちを語れるよう、教育・学び・地域コミュニティの充実を図っていくことが、一人ひとりのウェルビーイングの向上につながっていくものと思っています。

○ 事業ごとの意見について

点検及び評価の対象事業ごとに記載

第2期教育振興基本計画実施計画事業調査票

番号	1	事業名	学校危機管理体制整備推進事業			事業番号	8
第2期石巻市教育振興基本計画	施策目標	1 安全に安心して学べる教育環境整備の推進					
	基本施策	2 児童生徒の安全の確保					
	施策の展開	1 危機管理体制の整備					
【総合計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標						
	基本施策						
	施策の展開						
	事業名						
担当課	学校安全推進課	事業期間	H20 ~			摘要	継続
事業概要（目的）							
石巻市地域防災計画との整合性を図りつつ、学校周辺の地域の実情に即したより実践的な学校安全マニュアルの策定や見直しを毎年行い、迅速かつ適切な災害対応が出来る体制づくりに努める。							
事業効果							
災害発生時における危険回避や避難行動など、児童生徒の災害対応力が向上するとともに、学校と保護者、地域が共同した避難・誘導體制などの幅広い防災体制の推進が図られる。							
現状と課題							
東日本大震災を教訓とした災害対応にあたっては、地域と学校の連携した取組が重要である。地域防災連絡会が全ての学校園で設置が完了したことから、好事例を共有する等、内容を充実させていく。また、学校では、地域と連携した避難訓練を実施することにより、学校防災の一層の充実を図れるようにしていきたい。							
事業の実施内容		年度別事業計画					
		R4	R5	R6	R7	R8	
各学校・園における学校安全マニュアルの点検及び見直し		実施					→
指 標 名		単位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値
活動指標		校	51	49	55	52	51
学校安全マニュアルの点検及び見直しの実施 学校・園数							
成果指標		%	94.0	95.0	96.0	97.0	98.0
学校安全マニュアルチェックリストを使った 評価における高評価(A)の割合							
備考	令和5年度において活動指標の目標値を見直し 令和6年度において活動指標の目標値を見直し						

実施状況及び評価(CHECK)									
令和7年度の事業実施状況			安全担当主幹教諭10名により、全ての学校の安全マニュアルの点検と改善支援を実施し、その後、各校から修正したマニュアルの提出を受けた。 安全マニュアルの点検については、チェックリストを使用し全72項目について点検を実施した。 チェックリストを使用した点検を実施した結果、高評価(A)の割合は89.3%と目標値には届かなかったものの、令和6年度よりも高い数値となった。						
目標の達成状況 ※評価は下記「評価基準」により記載	活動指標	指標名	学校安全マニュアルの点検及び見直しの実施学校・園数						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	校	51	49	55	52	51	A
		実績	校	51	49	55	52		
		達成率	%	100.0	100.0	100.0	100.0		
	成果指標	指標名	学校安全マニュアルチェックリストを使った評価における高評価(A)の割合						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	%	94.0	95.0	96.0	97.0	98.0	B
		実績	%	93.0	96.1	81.0	89.3		
		達成率	%	98.9	101.1	84.4	92.1		
【事業評価基準】 達成率が100%以上・・・A 達成率が80%以上100%未満・・・B 									

番号 1 学校危機管理体制整備推進事業

学識経験者からの意見	【齊隆氏】 地域と学校の連携組織の設置がすべての学校で完了できており、安全マニュアルについての点検・改善も適切に進められており、十分な成果が認められます。今後も継続的な取組を進め、マニュアルの不断の見直しと、デジタル化による点検・報告の効率化を図ることが必要です。 一方、平常時の取組を充実させるために、授業時間内での地域連携の在り方を吟味することが重要です。そこで、防災主任の役割を再確認し、地域防災連絡会において主導的な立場から企画・運営に当たることについて検討してほしいと思います。 【湯目隆之氏】 「学校安全マニュアルの点検及び見直しの実施学校・園数」については、100%の達成率となり、児童生徒の安全確保や命を守るという目標のもと、すべての学校・園で安全マニュアルの点検と改善支援が行われていることが明らかとなりました。このことから、事業の実施は組織としての的確に行われていると確認できます。 一方、「学校安全マニュアルチェックリストを使った評価における高評価（A）の割合」は89.3%と目標値には届きませんでした。高評価（A）とならなかった項目についての原因と対策を各校から学校安全マニュアルの点検時に提出してもらうなどの措置が必要であると考えられます。チェックリストは「A：適、B：不適、△：不明」で評価されており、高評価（A）にならなかった項目への対策が求められます。 また、チェックリストの項目が多いという課題とともに、全教職員がチェックしなければならない項目と役職によってチェックが必要な項目があるということから、チェック方法の工夫も必要であると考えます。 【高橋由佳氏】 副読本の配布状況や、その効果を測定するための指標などがあると、今後の副読本の活用について参考になると思います。 また、学校だけでなく地域コミュニティなどへ広がっていくと、石巻の子どもたちが共通して学び、みんなが知っている本として機能していくと考えます。 学校防災推進会議のあり方については、ワーキンググループにおいて成果指標の目標に対するチェック機能を可視化し、持続可能な会議につながることを期待します。
-------------------	---

第2期石巻市教育振興基本計画実施計画事業調査票

番号	2	事業名	学力向上推進事業(全国学力・学習状況調査結果分析)			事業番号	22
第2期石巻市教育振興基本計画	施策目標	2 社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実					
	基本施策	1 確かな学力の向上					
	施策の展開	1 基礎・基本の確実な定着					
【総合計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	5 豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち					
	基本施策	2 社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実					
	施策の展開	1 学校教育の充実を図る					
	事業名	学力向上推進事業					
担当課	学校教育課		事業期間	H20 ~		摘要	継続
事業概要（目的）							
全国学力・学習状況調査の分析を基にした指導の工夫改善を図り、確かな学力向上に努める。							
事業効果							
全国学力・学習状況調査の分析をととした石巻市内の児童生徒の実態把握により、授業改善等の具体策が明らかになり、学力の向上が図られる。							
現状と課題							
令和7年度の結果としては、本市の国語科の平均正答率は小・中学校共に県平均と同等であり、全国との差は改善が見られる。算数科の平均正答率は小・中学校共に県平均を下回り、全国平均との差が広がっている。 これまでの取組を継続しつつ、本調査結果の分析を基に、主体的・対話的で深い学びの視点に立ち、さらに指導方法を改善することが求められている。また、分析結果を活用するための教員研修を充実させ、分かる授業づくりに一層注力し児童生徒の学力向上を目指す。							
事業の実施内容			年度別事業計画				
			R4	R5	R6	R7	R8
全国学力・学習状況調査の分析・考察・課題把握			実施				→
実践報告会の実施			実施				→
事業報告書・実践事例集の作成			実施				→
指 標 名		単位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値
活動指標		%	100	100	100	100	100
各校における「全国学力・学習状況調査の結果に基づいた取組の方針」の提出割合							
成果指標		%	33.0	45.0	50.0	52.0	54.0
全国学力・学習状況調査における算数・数学の平均正答率が県平均（仙台市除く）以上の学校の割合							
備考							

実施状況及び評価 (CHECK)									
令和 7 年度の事業実施状況			・全国学力・学習状況調査実施後にアンケートを取るとともに、県の結果の公表を受け、校長会で説明をした。 ・実施状況後の成果と課題を整理し、課題への対策を促した。 ・効果のあった取組を市教委から学校への文書やポータルサイトにより共有した。						
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	各校における「全国学力・学習状況調査の結果に基づいた取組の方針」の提出割合						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	%	100	100	100	100	100	A
		実績	%	100	100	100	100		
		達成率	%	100.0	100.0	100.0	100.0		
	成果指標	指標名	全国学力・学習状況調査における算数・数学の平均正答率が県平均（仙台市除く）以上の学校の割合						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	%	33.0	45.0	50.0	52.0	54.0	C
		実績	%	35.0	46.9	53.2	39.1		
		達成率	%	106.1	104.2	106.4	75.2		
【事業評価基準】 達成率が 1 0 0 % 以上・・・A 達成率が 8 0 % 以上 1 0 0 % 未満・・・B 達成率が 6 0 % 以上 8 0 % 未満・・・C 達成率が 4 0 % 以上 6 0 % 未満・・・D 達成率が 4 0 % 未満・・・E 事業を実施できなかった・・・F									
【事業全体の評価】 ※活動指標及び成果指標の達成状況から、事業全体の総合評価を上記の評価基準により、A～Fのいずれかを記載								総合評価	
								B	
取組の成果及び評価の理由			活動指標における、提出率100%の「取組の方針」に基づき、各校で改善サイクルが定着した点は大きな成果である。成果指標においては、R6 までは順調に推移していたが、R7 は達成率75.2%に留まった。次年度に向けた改善の土台は維持されているため、石巻市学力向上プログラムの推進を図っていく。						
課題・改善 (ACTION)									
事業を進める上での課題			・全国学力・学習状況調査の結果分析を通して、各校でP D C Aサイクルを作成し、つまずき解消に十分活用すること。 ・「分かる授業づくり」を推進するために市教科等推進員（旧市教科等指導員）による授業実践や授業研修会の取組を広めていくこと。 ・学校間の学力差を縮めていくこと。						
今後の対応方針			・授業改善に関する具体策を示し、教員の指導力を向上させる。 ・市主催研修会を実施し、授業改善の視点を共有する。 ・市教科等推進員による授業公開を参観するなど、市内の教員への研修の機会を充実させる。						
令和 8 年度の見込み			新規 <u>継続</u> (拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了						
事業費（決算額）			年度	R4	R5	R6	R7	R8	
			金額（千円）	17,549	23,965	15,814	25,681		

番号2 学力向上推進事業（全国学力・学習状況調査結果分析）

学識経験者からの意見	【齊隆氏】 各校での全国学力・学習状況調査結果の分析を丁寧に行われ、各校での具体的な取組の検討が進められており、成果が認められます。教育委員会が、授業づくりに重点を置く取組を進めており、市教科等推進員による研究授業の提供、先進校の情報収集などにより、各校での具体的な実践が推進されるよう積極的に指導、助言に取り組んでいることに期待します。 教師の授業改善への意欲高揚のため、授業準備の時間確保は必須です。 特に、管理職や教員の初任層が一定数配置されている現状を踏まえ、初任者研修の充実を目指し、学校間で協働的な研修を実施したり、教育機関との連携を図ったりすることも検討してほしいと思います。その際、市教科等推進員の効果的な活用が求められますので、模範的な授業を全教員が自身の都合に応じて視聴できるような環境構成が大切です。参観の時間の確保や移動時間の軽減を図るためにICT活用が有効になると考えます。 「学習の仕方」について、児童生徒に対して、市内で統一した指導の場を設けることが有効であると考えます。例えば、市の教育方針などを、小学校5年生、中学校2年生に対して、一堂に会する場を設けて、指導主事が直接指導することで、学習への意識付けや意欲の向上につながるものと考えます。 一方、結果の公表については、いわゆるマスコミの取り上げ方に注意し、教育の専門的な視点から、全国平均、県平均とのポイントの差がどのような意味を持つのかを丁寧に説明することが望まれます。ポイントの差にばかり目がいきがちですが、文部科学省が述べているように、平均点のとらえ方について注意が必要です。県教育委員会も±5ポイントの幅のとらえ方について説明していますので、ぜひ、参考にしてほしいと思います。 さらには、学校規模や地域環境の違いが及ぼす影響については、学力調査結果だけでは単純に把握できませんので、学習状況調査結果を分析し、学びに向かう心構えや具体的な実感を丁寧に把握してほしいと思います。その際、学習状況調査での高評価の項目の要因を絞り込むことが大切です。 【湯目隆之氏】 活動目標の「各校における『全国学力・学習状況調査の結果に基づいた取組の方針』の提出割合」において100%の学校が提出し、目標が達成されています。 過去4年間にわたり、各学校で学力向上を目指した取組の方針が策定されてきましたが、成果指標である「算数・数学の平均正答率が県平均以上の学校の割合」については、徐々に上昇しているものの、市内全校の約半数にとどまっています。これは、掲げた取組の方針に沿った指導が十分に行われず、児童生徒の学習内容の定着に十分結びついていないことが要因と考えられます。
-------------------	--

算数・数学の学習内容の定着には、日々の授業での復習や反復練習が欠かせません。児童生徒が自ら考え、問題を解決する機会を増やすことで、算数・数学への興味・関心を高め、理解を深めることができます。

また、算数・数学の不得意な児童生徒には習熟度に応じた丁寧な支援も必要と思われます。

今後は、各校の取組の方針に基づいた実践例を共有することで、学校間の格差を縮めていくことが期待されます。

【高橋由佳氏】

学校区ごとの家庭環境や地域の環境などの起因しているものが、学校格差として学力の数字に出てしまうのではないかと感じます。例えば、非課税世帯の割合が高い学校では、児童生徒の塾へ通う率が低いなども要因としてあるとすれば、教員のスキルだけでは測れない要因が隠れていると思われます。

そのような分析のもと、センシティブな児童生徒に対する合理的配慮を授業の中でどのように進めていくのか、工夫も必要になるのではないかと考えます。

改善の効果は、すぐには指標に表れないと思うものの、外部講師の活用なども取り入れながら、授業改善の糸口を見いだしていく授業案ができることを望みます。

児童生徒数が減少していることも踏まえ、傾向と対策をクラス単位でも構築でき、丁寧な授業ができるのではないかと感じています。

第2期石巻市教育振興基本計画実施計画事業調査票

番号	3	事業名	情報教育推進事業（学習活動）			事業番号	45
第2期石巻市教育振興基本計画	施策目標	2 社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実					
	基本施策	4 現代社会に対応した教育の推進					
	施策の展開	2 情報教育の充実					
【総合計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標						
	基本施策						
	施策の展開						
	事業名						
担当課	学校教育課	事業期間	R4	～	摘要	変更	
事業概要（目的）							
タブレット端末をはじめとするICT機器を活用し、分かりやすい授業を実施するとともに、それを支える教員の指導力向上を図ることにより、児童生徒の情報活用能力を育成する。							
事業効果							
ICT機器の活用により、授業改善が図られるとともに、社会の情報化により求められている児童生徒の情報活用能力の育成が図られる。							
現状と課題							
「Society5.0」時代の到来により、「生きる力」の重要な要素の一つである情報活用能力を確実に育成していく必要がある。そのためにもICT等を活用した学習の展開など、急速な情報化に対応するために、今日的な教育課題を把握し、学校の指導計画に位置付け、継続して見直しと改善を図る必要がある。							
事業の実施内容		年度別事業計画					
		R4	R5	R6	R7	R8	
石巻市情報教育推進委員会による活動計画の策定		実施					▶
タブレット端末等に関する研修会の実施と参加啓発		実施					▶
視聴覚センター主催事業との連携		実施					▶
指 標 名		単位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値
活動指標		%	100	100	100	100	100
授業でタブレット等を活用している児童生徒の割合							
成果指標		%	58.0	59.0	60.0	61.0	62.0
「タブレット端末や電子黒板等を使った授業は、よく分かりますか。」に「よく分かる」と答えた児童生徒の割合（上段：小学6年生、下段：中学2年生）			56.0	57.0	58.0	59.0	60.0
備考							

実施状況及び評価(CHECK)									
令和7年度の事業実施状況			1 石巻市情報教育推進委員会 3回開催 生成AIの実践事例や利活用ガイドラインの方向性について協議した。 2 ICT・生成AI活用についての研修会 1回開催 視聴覚センター主催事業との連携研修会 1回開催 3 県Google関連のオンデマンド研修サイトの活用周知 いつでも必要な時に研修できる環境の整備						
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	授業でタブレット等を活用している児童生徒の割合						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	%	100	100	100	100	100	A
		実績	%	100	100	100	100		
		達成率	%	100.0	100.0	100.0	100.0		
	成果指標	指標名	「タブレット端末や電子黒板等を使った授業は、よく分かりますか。」に「よく分かる」と答えた児童生徒の割合（上段：小学6年生、下段：中学2年生）						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	%	58.0 56.0	59.0 57.0	60.0 58.0	61.0 59.0	62.0 60.0	B
		実績	%	48.6 33.1	54.1 47.3	51.1 43.1	55.3 42.8		
		達成率	%	83.8 59.1	91.7 83.0	85.2 74.3	90.7 72.5		
【事業評価基準】 達成率が100%以上・・・A 達成率が80%以上100%未満・・・B 達成率が60%以上80%未満・・・C 達成率が40%以上60%未満・・・D 達成率が40%未満・・・E 事業を実施できなかった・・・F									
【事業全体の評価】 ※活動指標及び成果指標の達成状況から、事業全体の総合評価を上記の評価基準により、A～Fのいずれかを記載							総合評価		
							B		
取組の成果及び評価の理由		「よく分かる」と回答した生徒の割合について、小学6年生は約4%増加したが、中学2年生においては、若干の減少が見られた。タブレット端末の活用から5年が経過し、様々な場面での活用が図られているが、児童生徒の「分かる」体験に直結した取組の不足が影響したと考えられる。							
課題・改善(ACTION)									
事業を進める上での課題		タブレット端末の活用の充実を図る時期となり、市内で実践を重ねている教員を講師として活用するなど、授業に生かすことのできる研修を計画・実施する必要がある。また、ICT機器やロイロノート等を活用し、協働的な学習を保証できる授業づくりを進めるとともに、児童生徒の自己調整力を高めていく必要がある。							
今後の対応方針		授業において、児童生徒が協働的に学ぶツールとしての利用促進を図るために、実践を積み重ねている教員をリーダーとして研修を企画していく。また、生成AIやロイロノート等を活用した実践例を情報共有することで、教員の授業力の向上に努めていく。							
令和8年度の見込み		新規 <u>継続</u> (拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了							
事業費（決算額）		年度	R4	R5	R6	R7	R8		
		金額（千円）	7,885	8,200	2,390	12,614			

番号 3 情報教育推進事業（学習活動）

学識経験者からの意見	【齊隆氏】 タブレット端末の配置が完了し、教育委員会として各校での活用の推進を図るための指導も進んでおり、成果が十分に認められます。活用の充実を図るため、教員の指導による差が大きくなならないよう、教育委員会としての指導が今後も重要です。 そこで、児童生徒が実際に使用する場面を設けることが不可欠ですから、授業中に児童生徒が自ら使いたいというタイミングで自在に活用できるようにしていくことが求められています。 「タブレット端末や電子黒板等を使った授業は、よく分かりますか。」という質問に対する回答で、小学校と中学校での達成率に差が、近年開いてきている状況が見られます。小学校と中学校での活用状況の違いについて、確認することが必要だと思います。併せて、「よく分かる」と回答した理由を分析し、授業改善へ繋げることが大切だと思います。 また、タブレット端末やICTの活用による学び方や成果について、教員と児童生徒のとらえ方の違いを分析し、児童生徒の調整力がどのように身に付いていくのかを明らかにすることが求められます。成果を上げた学校の取組を、市内共通の指導方法として広めることが重要になると考えます。 なお、全国学力・学習状況調査における質問紙調査の結果についても活用することが大切だと思います。 【湯目隆之氏】 石巻市では、令和7年度から学校現場でタブレット端末が導入され、令和8年度からは生成AIの利用も開始されるなど、ICT教育の推進が図られています。活動指標の「授業でタブレット等を活用している児童生徒の割合」は達成率100%となっており、学習の効率化や個別最適化、情報収集の容易さなど、多くのメリットを生かした活用が進められていると考えられます。 一方、小学校6年生及び中学校2年生を対象とした調査では、成果指標として挙げた「タブレット等を使った授業は、よく分かりますか。」という問いに対し、「よく分かる」と答えた児童生徒の割合は、小学校6年生で90.7%、中学校2年生で72.5%でした。小学校においては概ね達成しているものの、中学校では達成率が70%台と小中の中での使用頻度の差が数字に表れている可能性があるかと考えます。 タブレットを活用した授業を効果的に行うためには、教員自身がICTスキルを身につけることが重要です。児童生徒の学習内容の理解を深めるツールとしてだけでなく、学習内容への興味や関心を高めるためにも、各教科でICTの活用が求められます。 今後は、様々な研修の機会を活用し、教員のICTスキル向上に取り組む必要があると考えます。
-------------------	---

【高橋由佳氏】

I C T ・ ネットリテラシー教育については、ぜひ外部の民間団体の専門講師を招いた授業を実施していただきたいと思います。

予算面の課題もあると思われますが、ガイドラインをアップデートしながら、その効果についても継続的に検証していただくことを望みます。

最新の情報とスキルを子どもたちへ届けることは、子どもたちの学びのモチベーションの向上にもつながると感じています。社会との乖離のない教育の提供を期待します。

第2期石巻市教育振興基本計画実施計画事業調査票

番号	4	事業名	石巻市学びサポートセンター事業			事業番号	56	
第2期石巻市教育振興基本計画	施策目標	2 社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実						
	基本施策	6 不登校児童生徒対策の充実						
	施策の展開	3 不登校児童生徒への支援の充実						
【総合計画における位置づけ】								
総合計画	基本目標	5 豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち						
	基本施策	2 社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実						
	施策の展開	1 学校教育の充実を図る						
	事業名	石巻市学びサポートセンター事業						
担当課	学校教育課		事業期間	R5 ~		摘要	新規	
事業概要（目的）								
学校生活への不安や心配がある児童生徒の教育相談を、電話相談、来所相談、訪問相談などニーズに合わせて実施する。また、不登校等児童生徒の自立並びに学校生活への自発的な復帰を促進するための通所による学習支援・適応指導の実施や学校生活への不安や心配がある児童生徒に対して、アウトリーチによる生活及び学習への支援・助言を実施する。								
事業効果								
これまでの通所型の適応指導教室、アウトリーチによる心のサポートの機能に、学校生活に不安や悩みを抱える児童生徒、保護者の相談・支援を行う機能を加えて総合的に児童生徒の学びのサポートを行うとともに、情報を一元化して、学校、関係機関との連携を迅速に進め、よりスムーズに対応ができるようになる。								
現状と課題								
適応指導教室通所児童生徒の中で、発達に障害をもつ割合は高まりつつある。また、家から出られず通所できない児童生徒に対する家庭や学校への訪問指導など、より手厚い支援を必要とする児童生徒が増加しており、対応する人員の充実が必須である。適応指導教室と石巻市子どものサポートハウスの機能を統合したことで、児童生徒の実態に応じた通所支援、訪問支援、相談支援に臨機応変に対応することができた。石巻市学びサポートセンターを家庭や学校に周知し、積極的に活用してもらうことが必要である。								
事業の実施内容				年度別事業計画				
				R4	R5	R6	R7	R8
児童生徒との教育相談及び学校、保護者との連携				計画	実施			→
児童生徒の実態等に応じた学習支援				計画	実施			→
児童生徒へのアウトリーチによる学習、生活への支援				計画	実施			→
人間関係、仲間づくりを目的とした体験活動の充実				計画	実施			→
指 標 名		単位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値	
活動指標		%	—	—	70.0	70.0	70.0	
主体的に学ぼうとする通所児童生徒の割合（一部自学自習を含む）								
成果指標		%	—	—	100.0	100.0	100.0	
希望進路の達成率								
備考	令和6年度において活動指標及び成果指標を見直し							

実施状況及び評価 (CHECK)									
令和 7 年度の事業実施状況			1 学Base（通所型の学習支援） 学校や保護者と連携し、小中学校22校 計45名に対して学習支援や教育相談を行った。 2 相Talk（相談活動） 電話や来所による相談対応や学校でのケース会議への参加・助言を行った。 3 心Reach（アウトリーチによる学習支援） 中学校やフリースクールに訪問して学習支援を行った。 4 小中学校との懇談会 2回開催 5 フリースクールとの交流会 2回開催						
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	主体的に学ぼうとする通所児童生徒の割合（一部自学自習を含む）						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	%	—	—	70.0	70.0	70.0	A
		実績	%	—	—	69.0	70.0		
		達成率	%	—	—	98.6	100.0		
	成果指標	指標名	希望進路の達成率						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	%	—	—	100.0	100.0	100.0	A
		実績	%	—	—	100.0	100.0		
		達成率	%	—	—	100.0	100.0		
【事業評価基準】 達成率が100%以上・・・A 達成率が80%以上100%未満・・・B 達成率が60%以上80%未満・・・C 達成率が40%以上60%未満・・・D 達成率が40%未満・・・E 事業を実施できなかった・・・F									
【事業全体の評価】 ※活動指標及び成果指標の達成状況から、事業全体の総合評価を上記の評価基準により、A～Fのいずれかを記載								総合評価	
								A	
取組の成果及び評価の理由			活動指標及び成果指標ともに目標値を達成することができた。通所児童生徒の実態として、学習面に課題を持つ児童生徒が多い中、指導員が伴走して学習への取組を促すとともに、進路目標の実現を果たすことができた。						
課題・改善 (ACTION)									
事業を進める上での課題			社会的自立を目指し、自学自習をすることができる児童生徒の育成を目指しているが、学習に向かう土台に課題を持つ生徒が少なくない。学校との連携はもちろん、家庭との連携や家庭への働き掛けが不可欠である。個に応じた支援が求められるため、指導員の増員は今後も検討する必要がある。						
今後の対応方針			向陽学びサポートセンターと新たに開設した住吉学びサポートセンターの2拠点で活動し、通所児童生徒の実情に応じた学びの充実を図っていく。 また、通所児童生徒及び別室登校を行う児童生徒への学習支援の状況を踏まえ、ニーズに応じて指導員の増員を図る。						
令和 8 年度の見込み			新規 継続 拡充 縮小 休止 廃止 期間満了による終了						
事業費（決算額）			年度	R4	R5	R6	R7	R8	
			金額（千円）	—	19,211	29,130	38,312		

番号 4 石巻市学びサポートセンター事業

学識経験者からの意見	【齊隆氏】 全体的に、多様な支援に取り組んでおり、限られた人的資源を有効に生かしており、成果が認められます。通学できるものの教室に入ることが出来ない、支援する施設に通所することが出来ないため、自宅にいる児童生徒に家庭訪問していることを、今後もぜひ継続してほしいと思います。 「社会的自立を目指す上で自学自習ができる児童生徒の育成を目指している」ことについて、「社会的自立」は、広い視野でとらえることが必要になると考えます。すなわち、学習に向かう土台となる課題を求める上で、学習の困難性に注視することも大切ですが、それ以上に、自身の抱える課題を解決するために、一人で抱え込まず、他の力を借りること、支援を求めること、どこに行けばどのような支援を受けられるかを見出すことなどの重要性や必要性の理解を目指すようにと考えます。 将来、義務教育を修了して社会に出たときの課題解決の方法を学ぶ機会を設けることが重要であり、そのためにも、家から出ることが難しい児童生徒に対する訪問は、人員の確保、充実が求められます。 また、そうした児童生徒の学習支援については、ＩＣＴを活用した双方向型の授業展開について検討していただきたいと思います。 なお、家庭訪問については、児童生徒が規則正しい生活を送ることを促すためにも、授業時間帯に実施できるよう配慮していただきたいと思います。併せて、複数での訪問になるよう管理職の指導が必要になると考えます。 【湯目隆之氏】 学Baseでの学習支援や相談活動及びアウトリーチによる学習支援など、様々な方法を通じて多様化している不登校児童生徒一人ひとりの状況に応じた心のサポートと学習支援が提供されています。これにより、児童生徒の社会的自立に寄り添う環境が着実に整いつつあります。 このような中、活動目標である「主体的に学ぼうとする通所児童生徒の割合」の目標値70%を達成できたことは、評価に値すると考えられます。 しかし、通所している児童生徒一人ひとりの目標は異なることから、一律に「主体的に学ぼうとする通所児童生徒の割合」を活動目標とすることには疑問を感じます。児童生徒が家から一歩踏み出して通所できるステージに上がり、さらに通所する中で自身が成長していく実感を数値化するなど、今後の検討が必要と考えられます。 また、成果指標の「希望進路の達成率」が100%と達成できたことは、関わっている職員の皆様の御努力の賜物だと考えます。 今後、通所施設が児童生徒にとって居心地が良く、自分を成長させる場であり続けることが期待されます。
------------	--

【高橋由佳氏】

アウトリーチ支援の重要性は以前から感じており、声なき声を抱える児童生徒を学校以外の場でキャッチすることは、大変重要であると感じています。

地域社会資源（フリースクールや民間の学習支援団体）との連携を深め、学びサポートのプラットフォームがあることで、それぞれの特徴を生かした学びのサポート体制が構築できるのではないかと思います。

また、学びサポートセンターには、ぜひ大学生（石巻専修大学との連携）のボランティアなどを積極的に受け入れ、子どもたちが学びサポートセンターで学びたくなるフックとして機能できるような人材配置も必要ではないかと考えます。

第2期教育振興基本計画実施計画事業調査票

番号	5	事業名	幼児教育推進事業			事業番号	58
第2期石巻市教育振興基本計画	施策目標	2 社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実		2 社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実			
	基本施策	8 幼児教育の充実		8 幼児教育の充実			
	施策の展開	1 幼稚園・保育所・こども園・小学校との連携の推進		3 教育・保育内容の充実と教員・保育士の資質向上			
【総合計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	5 豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち					
	基本施策	2 社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実					
	施策の展開	4 就学に係る支援を強化する					
	事業名	幼児教育推進事業					
担当課	学校教育課・子ども保育課	事業期間	R6	～	摘要	継続	
事業概要（目的）							
石巻市幼児教育センターを設置し、小学校入学に係る幼児の引継ぎをスムーズに行うため、公立及び私立の幼稚園・こども園・保育所と小学校の連携を推進し、幼児教育アドバイザーの巡回指導や研修事業等を通じ、幼稚園教諭、保育士と小学校教諭との交流と相互理解を図る。また、幼児教育の質を高める指導助言を行うことにより、幼児期における「学びの土台作り」を推進する。							
事業効果							
幼稚園・こども園・保育所と小学校の連携を推進することで、幼児の特性等の情報を共有し、小学校入学に係るスムーズな引継ぎを行うことができ、「学びの土台づくり」が推進される。							
現状と課題							
小学校との交流は、就学前連絡会議の開催や運動会・学芸会などの行事への参加等に留まっており、十分な連携には至っていない。各幼児教育施設の現状や小学校との連携の実情についてアドバイザーが訪問することで適切に把握し、幼児教育推進のあり方について検討し内容の充実を図って行く必要がある。							
事業の実施内容		年度別事業計画					
		R4	R5	R6	R7	R8	
幼児教育センターの設置			計画	実施			▶
幼児教育アドバイザーによる巡回指導				実施			▶
幼稚園・保育所・こども園と小学校の合同研修会の開催		実施					▶
幼児教育プランの策定			計画	計画	実施		▶
指 標 名	単位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値	
活動指標	校						
小学校入学に伴う児童の引継ぎが適切に行われた小学校数		-	-	-	19	25	
成果指標	校						
児童の発達に応じた教育に繋げることができたと回答した小学校数		-	-	-	19	25	
備考	令和7年度において「幼児教育推進事業（幼児教育施設との連携事業）」と「幼児教育推進事業」を統合						

実施状況及び評価(CHECK)									
令和7年度の事業実施状況			1 幼保こ小合同研修会 2回 2 市内幼児教育施設・小学校連携担当者研修会 1回 3 幼児教育センターだより（交流・連携の促進）の発行 14回 4 市内幼児教育施設・小学校間の引継ぎ枠を統一し、確実に引継ぎを実施						
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	小学校入学に伴う児童の引継ぎが適切に行われた小学校数						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	校	-	-	-	19	25	A
		実績	校	-	-	-	30		
		達成率	%	-	-	-	157.9		
	成果指標	指標名	児童の発達に応じた教育に繋げることができたと回答した小学校数						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	校	-	-	-	19	25	A
		実績	校	-	-	-	30		
		達成率	%	-	-	-	157.9		
【事業評価基準】 達成率が100%以上・・・A 達成率が80%以上100%未満・・・B 達成率が60%以上80%未満・・・C 達成率が40%以上60%未満・・・D 達成率が40%未満・・・E 事業を実施できなかった・・・F									
【事業全体の評価】 ※活動指標及び成果指標の達成状況から、事業全体の総合評価を上記の評価基準により、A～Fのいずれかを記載								総合評価	
								A	
取組の成果及び評価の理由			市内幼児教育施設・小学校連携研修会等をととして顔の見える関係が構築され、双方の意識が高まり連携が図られたことで全小学校との交流が達成された。						
課題・改善(ACTION)									
事業を進める上での課題			今後も研修会等の開催をととして幼児教育施設と小学校の顔の見える関係づくりを継続し、連携し続けていく必要がある。 また、架け橋期のカリキュラムの策定に繋げるため、幼児教育施設にはアプローチカリキュラム、小学校にはスタートカリキュラムの作成を促していく。 今後も双方の交流が図られるような研修会を継続して実施していく。						
今後の対応方針			令和8年度も幼児教育施設と小学校の顔が見える研修会を開催し、お互いの行っている活動を理解し合い、連携していけるような取組を継続していく。						
令和8年度の見込み			新規 <u>継続</u> (拡充)・縮小 休止 廃止 期間満了による終了						
事業費（決算額）			年度	R4	R5	R6	R7	R8	
			金額（千円）	—	—	—	7,297		

学識経験者からの意見	【齊隆氏】 担当者が直接対面で情報交換を行っていることは大変有効であり、成果が認められます。 また、「架け橋期」の指導のため、アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムの作成が進められており、各学校・園の実態に応じたものとなり、これからの取組に期待しています。その際、柔軟な運用ができるよう心掛けていただきたいと思います。 情報交換の効率化のためには、個別支援計画等の様式の統一は不可欠であり、その作成に当たり負担軽減を図るために、デジタル化などの工夫が必要であると考えます。 指導者の研修の充実について、内容として、保護者への働き掛けの具体的な方法を取り上げていただきたいと思います。 特に、幼保こ小合同研修会では、顔の見える関係をより強化し、それぞれの保育・教育の特質を理解するため、小学校区ごとに指導者による保育参観・授業参観を実施することが重要になると考えます。その際には、全員が一斉に参加することが難しいと思いますので、複数回実施することやICTを活用することなどの工夫が必要になると考えます。 【湯目隆之氏】 活動指標の「小学校入学に伴う児童の引継ぎが適切に行われた小学校数」及び成果指標の「児童の発達に応じた教育に繋げることができたと回答した小学校数」の達成率は、いずれも100%を大きく上回っています。この結果から、幼児教育施設と小学校の連携の重要性が強く認識されていることがうかがえます。 また、令和7年度の目標値が市内小学校数の約6割に設定されたことにより、達成率が大幅に上昇した側面も見られます。今後は、対象となるすべての小学校数を目標値とすることが望ましいと考えられます。 幼児教育施設と小学校の間には明確なカリキュラムの違いが存在しているため、双方がそれぞれのカリキュラム内容を理解することが重要です。令和7年度の実施事業として、「幼保こ小合同研修会」や「連携担当者研修会」などが実施されており、これらの取組を通じて、双方の交流が深まり、幼児が無理なく教育段階を移行できる環境が整うことが期待されます。 また、このような連携により、子どもたちの自己肯定感や学ぶ意欲が一層高まることが期待されます。 【高橋由佳氏】 引継ぎシートを活用して、「コーディネーター」や「アドバイザー」的な役割（ファシリテーター役）を担う職員が、早期支援や早期介入を行うことでニーズをキャッチし、サポートが必要な子どもへの支援や予防につながると考えます。 そのような役割を担う人材への研修についても、充実が図られることを期待します。
-------------------	--

第2期石巻市教育振興基本計画実施計画事業調査票

番号	6	事業名	桜坂高等学校の魅力ある学校づくり事業			事業番号	63
第2期石巻市教育振興基本計画	施策目標	2 社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実					
	基本施策	9 高校教育の充実					
	施策の展開	1 魅力あるカリキュラムの提供、教育内容の充実					
【総合計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	5 豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち					
	基本施策	2 社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実					
	施策の展開	1 学校教育の充実を図る					
	事業名	桜坂高等学校の魅力ある学校づくり事業					
担当課	学校教育課		事業期間	H25 ～		摘要	継続
事業概要（目的）							
桜坂高校の教育の三本柱である「品格教育」、「キャリア教育」、「学力保証」の推進及び充実を図り、生徒の進路希望や興味・関心、社会の動向に対応しながら、人間的な成長と品格の涵養に努め、石巻市の未来を担う人材の育成及び輩出を目指す。							
事業効果							
教育の三本柱の推進及び充実により、桜坂高校の魅力がさらに向上することで、募集定員の確保につながるとともに、石巻市の未来を担う人材育成が図られる。							
現状と課題							
少子化の影響があり定員充足率の伸長は難しい状況であるが、進路達成率は高い水準で推移している。今後も魅力ある学校づくり事業を継続し、生徒一人一人が望む多様な進路達成を実現するために、教育の三本柱に係る教育活動を充実させ、「学校の魅力向上」を図るとともに、「学校の魅力発信」に努め、桜坂高校の魅力を石巻市内外に強力にPRしていく必要がある。							
事業の実施内容		年度別事業計画					
		R4	R5	R6	R7	R8	
桜坂高校の三本柱の推進に係る各種講座等の実施		実施					→
指 標 名	単位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値	
活動指標	%	—	—	—	99	100	
講座の受講を経て主体的に進路を選択できた生徒の割合							
成果指標	%	—	100	100	100	100	
卒業生徒の進路達成率							
備考	令和7年度において活動指標を見直し						

実施状況及び評価 (CHECK)									
令和 7 年度の事業実施状況			桜坂高等学校の三本柱の推進に係る各種講座等は 1 4 回実施した。 ・品格教育に係る事業（3 回）：小笠原流礼法指導（各学年：1 回） ・学力保証に係る事業（2 回）：野外観察（1 回）、教員の先進校視察（1 回、2 泊 3 日） ・キャリア教育に係る講座（9 回）：先輩に聞く会（1 回）、模擬面接（2 回）、ビジネスマナー講座（2 回）、お仕事サロン（3 回）、親教育講話（1 回）						
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	講座の受講を経て主体的に進路を選択できた生徒の割合						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	%	—	—	—	99	100	A
		実績	%	—	—	—	100		
		達成率	%	—	—	—	101.0		
	成果指標	指標名	卒業生徒の進路達成率						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	%	—	100	100	100	100	B
		実績	%	99.2	99.1	100	98.9		
		達成率	%	—	99.1	100.0	98.9		
【事業評価基準】 達成率が 1 0 0 % 以上・・・A 達成率が 8 0 % 以上 1 0 0 % 未満・・・B 達成率が 6 0 % 以上 8 0 % 未満・・・C 達成率が 4 0 % 以上 6 0 % 未満・・・D 達成率が 4 0 % 未満・・・E 事業を実施できなかった・・・F									
【事業全体の評価】 ※活動指標及び成果指標の達成状況から、事業全体の総合評価を上記の評価基準により、A～Fのいずれかを記載								総合評価	
								A	
取組の成果及び評価の理由			桜坂高等学校の教育の三本柱「品格教育」「キャリア教育」「学力保証」のうち、特にキャリア教育に係る事業を重点的に進めた。多様な進路を実現するための取組である進路ガイダンスでは、様々な職種で活躍する講師を招聘し、講話をいただいた。生徒の希望進路達成率は100%とはならなかったものの、高水準を維持している。						
課題・改善 (ACTION)									
事業を進める上での課題			石巻市内の中学校卒業生数は、平成31年度から令和10年度までの間に200人程度減少する見込みである。令和 8 年度入試（R8.3実施）の石巻地区の定員充足率は76.3%であり、桜坂高校はそれを下回る61.9%にとどまった。これまで以上に「学校の魅力発信」に努め、市内及び市外からの入学生を増やす必要がある。						
今後の対応方針			教育課程における両コースの特色を明確にし、地域社会を担う多様な人材の育成を目指す。さらに、地域と連携した探究活動を充実させることで「学校の魅力向上」を図る。 また、ホームページの充実、オープンキャンパス、学校公開、ポスターの発行等をはじめ、管内の中学校や、生徒の通学圏を考慮した鉄道沿線沿いの中学校等も訪問するなど、これまで以上に「学校の魅力発信」に努める。						
令和 8 年度の見込み			新規 <u>継続</u> <u>(拡充)</u> ・縮小 休止 廃止 期間満了による終了						
事業費（決算額）			年度	R4	R5	R6	R7	R8	
			金額（千円）	3,302	3,035	2,972	2,848		

番号 6 桜坂高等学校の魅力ある学校づくり事業

学識経験者からの意見	【齊隆氏】 この数年間の定員充足率の伸長が難しい中でも、入学後の満足度が高いことから、学校の取組の成果がよく表れています。市内中学校からの入学生を増やすためにも、市内の小・中学校や大学との連携をより密にして、桜坂高等学校の認知度を高めていただきたいと思います。 また、教育方針をより広範囲に発信し、受験生に魅力のある高校であることを強調することが重要だと思います。その際、進路実現については、上級学校進学後の就職先の情報提供などが大切だと思います。 学校の価値について、在校生自身も考える機会を持つことが大切です。地域社会を担う人材育成を目指す上で、地域と連携した探究活動を発展的にとらえ、石巻市及びその周辺地域の課題が、他の地域ではどのようなものになっているのか、比較するなど広範囲での探究活動となる指導をすることが大切です。石巻市への定住にこだわらず、どこで生活しても石巻市に心を寄せる人材を育成することが重要になると考えます。 将来構想については、これまでもいろいろな考えがありましたが、思い切った転換に踏み出すことも大切です。例えば、三本柱の具現化を目指し、多様な進路実現に対応するため、現在の普通科2コース制を普通科はそのまま複数コース制とし、併せて文理融合のカリキュラムにすることも考えられます。 また、そのことが在校生一人ひとりへの希望実現に大きく貢献するものとなるよう、大学・専門学校への進学者が一定数いることから、地元大学への進学に関して連携強化を図ることは有効だと思います。 【湯目隆之氏】 活動指標である「講座の受講を経て主体的に進路を選択できた生徒の割合」の達成率が101%と高くなっている要因の一つとして、3年間にわたって他校にはない本校独自の様々な講座が開催されていることが挙げられます。 また、成果指標「卒業生徒の進路達成率」が98.9%と非常に高い数値を示しているのは、「キャリア教育」に重点を置き、進路ガイダンスや先輩に聞く会などの取組を通して、生徒の進路への関心や意欲を高めてきた結果と考えられます。 しかしながら、これらキャリア教育や進路指導において成果が表れている一方で、定員充足率が61.9%にとどまっていることは、学校全体として大きな課題です。 今後、令和7年度に発足した桜坂高等学校のあり方を検討する会において、「学校の魅力」について、石巻地域の中学生やその保護者をはじめとする多様な意見を集約し、少子化の進行の中で本校の進むべき方向性について、十分に検討していただきたいと思います。 【高橋由佳氏】 県内唯一の公立の女子高等学校として誇れる学校であることを、もっと積極的にPRしてもよいと考えます。 地元企業からも桜坂高等学校の生徒は最も人気があり、地元に残って地域産業に貢献している女性活躍の事例になっていると思っています。 定員充足率や予算面はあるものの、魅力ある学校として全国的にもモデルになる学校づくりを目指していただきたいと思います。 また、高大連携として石巻専修大学との連携においても、大学の学部（人間教育学部・理工学部・経営学部など）に寄せた特別授業なども取り入れて
-------------------	---

	いくことで、大学進学への興味・関心や生徒のモチベーションにつながるのではないかと考えます。
--	---

第2期教育振興基本計画実施計画事業調査票

番号	7	事業名	防災教育充実事業			事業番号	66
第2期石巻市教育振興基本計画	施策目標	3 いのちを守る防災教育の推進					
	基本施策	1 防災教育の推進					
	施策の展開	1 防災教育の充実					
【総合計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	5 豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち					
	基本施策	3 いのちを守る防災教育の推進					
	施策の展開	2 防災教育の充実を図る					
	事業名	防災教育充実事業					
担当課	学校安全推進課	事業期間	H23 ～			摘要	継続
事業概要（目的）							
避難訓練や防災教育副読本等を用いた児童生徒の発達段階に応じた系統的防災教育を実践するとともに、学校防災の充実のために、学校と地域や関係機関等との連携強化を図る。							
事業効果							
児童生徒の実態及び学校の周辺環境に応じた防災教育が実践され、児童生徒の災害対応力が向上するとともに、学校と地域や関係機関等との連携による災害発生時の的確な緊急対応が可能となる。							
現状と課題							
東日本大震災の教訓により、大規模災害時における「自助」、「共助」の力を向上させる防災教育が重要となっている。 今後、震災を体験していない児童生徒及び教職員が増えていく中で、いかに児童生徒らに震災の事実、教訓を語り継いでいくかが課題である。							
事業の実施内容		年度別事業計画					
		R4	R5	R6	R7	R8	
防災教育、避難訓練の実施		実施				→	
防災教育副読本の作成と活用		実施				→	
学校防災推進会議による地域と連携した学校防災の推進		実施				→	
指 標 名	単位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値	
活動指標	回	—	—	—	8.3	8.4	
避難訓練の年平均実施回数							
成果指標	%	—	—	70	55	58	
各学校・園の避難訓練における総合評価Aの割合							
備考	令和5年度において活動指標及び成果指標を見直し 令和6年度において事業名の変更及び成果指標を見直し 令和7年度において活動指標及び成果指標の目標値を見直し						

実施状況及び評価(CHECK)									
令和7年度の事業実施状況			学校防災推進会議「WG3・防災教育」にて会議を実施し、委員で協議しながら防災教育副読本の一部改訂を実施し、全ての市立小・中学校の対象となる児童生徒へ配付した。 全ての市立小・中学校で防災教育副読本を活用した防災教育を実施し、児童生徒の防災対応力の向上を図った。 また、不審者対策や各種災害を想定した複数回の避難訓練を全ての市立学校・園で実施した。						
目標の達成状況 ※評価は下記「評価基準」により記載	活動指標	指標名	避難訓練の年平均実施回数						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	回	—	—	—	8.3	8.4	A
		実績	回	—	—	—	8.3		
		達成率	%	—	—	—	100.0		
	成果指標	指標名	各学校・園の避難訓練における総合評価Aの割合						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	%	—	—	70	55	58	A
		実績	%	—	—	41.8	57.7		
		達成率	%	—	—	59.7	104.9		
【事業評価基準】 達成率が100%以上・・・A 達成率が80%以上100%未満・・・B 達成率が60%以上80%未満・・・C 達成率が40%以上60%未満・・・D 達成率が40%未満・・・E 事業を実施できなかった・・・F									
【事業全体の評価】 ※活動指標及び成果指標の達成状況から、事業全体の総合評価を上記の評価基準により、A～Fのいずれかを記載								総合評価	
								A	
取組の成果及び評価の理由			防災教育副読本については、全ての市立小・中学校で防災教育の際に活用しており、毎年度小規模の改訂を実施している。 また、「避難訓練」においては、不審者対策や各種災害を想定した訓練を年間で複数回実施し、管理職不在時など多様なシチュエーションを設定することで、より実践的な訓練の実施につなげるとともに、訓練を通じて課題を抽出し、ブラッシュアップを図っている。 さらに、市総合防災訓練にて地域と合同での避難訓練の実施や地域住民の知見を取り入れた復興・防災マップの作成など、地域と連携した学校防災の推進にも取り組んできた。 各学校・園が防災における地域との連携の重要性を認識し、業前時間や総合的な学習の時間等を活用して、教育課程内で時間設定を工夫しながら継続的な指導に努めている。						
課題・改善(ACTION)									
事業を進める上での課題			令和8年度以降は、小・中学校に在籍する児童生徒の全てが震災を経験していない世代となるため、震災伝承にも重点を置いた防災教育をいかに実践的に展開していくかが課題である。						
今後の対応方針			防災教育副読本等を活用した防災教育の取組を推進し、震災の教訓を風化させないよう取り組んでいくとともに、実践的な避難訓練を実施する。 また、震災遺構を活用した防災教育も推進していく。						
令和8年度の見込み			新規 <u>継続</u> (拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了						
事業費(決算額)			年度	R4	R5	R6	R7	R8	
			金額(千円)	5,329	5,697	6,705	5,474		

学識経験者からの意見	【齊隆氏】 学校防災会議が実施され、防災教育が確実に進められており、児童生徒の防災対応力が向上していることが成果として認められます。 また、防災教育副読本の内容も素晴らしいものであり、タブレットに保存するなど、常に目に触れるようにし、家庭でも話題になるようにし、ぜひ有効な活用を目指していただきたいと思います。 避難訓練では、教育課程内で時間設定を工夫しながら、多様な場面を想定して取り組んでおり、適切であると思います。 一方、管理職・防災主任等が不在となることを想定した対応について、細かくマニュアルにも記載されるよう求めます。併せて、地域の実態のとらえ方について、類似する市内の各校間での情報共有が必要であるので、教育委員会による調整が重要になると思います。 特に、平常時における地域との交流のあり方は、避難訓練や発災時の対応に確実に反映されるよう、担当者間の連携が重要であると思うので、防災主任の活用について管理職の配慮が求められます。 また、震災遺構を活用した防災教育を推進するに当たり、具体的な活動に対して、十分な予算確保が必要になると考えます。 【湯目隆之氏】 活動指標である「避難訓練の年平均実施回数」については、達成率が100%に到達しており、各学校等において適切な避難訓練が実施されているものと考えられます。 また、「各学校・園の避難訓練における総合評価Aの割合」も104.9%の達成率となっており、評価できる結果であると考えます。 しかし、目標値が前年度（令和6年度）に比べて15ポイントも低く設定されている点については疑問が残ります。令和7年度の「総合評価A」の目標値を55%に設定しなければならない状況の見極めが必要です。 児童生徒に対しては、防災教育副読本「未来へつなぐ」を活用して防災意識の向上を図っているほか、教職員についても防災カードゲーム「クロスロード石巻版」等を取り入れており、防災教育の一層の推進に役立っていると考えられます。 また、震災遺構などでの児童生徒の見学や体験活動については、積極的に実施したいものの、財源上の課題もあり十分に行えていない現状があります。 今後は、必要な予算措置を講じ、最低でも小学校で1回、中学校で1回程度の見学や体験的な活動が実施できることが望まれます。 【高橋由佳氏】 防災は、地域住民や自治組織も含む地域全体のコミュニティの中で取り組んでいくことが重要だと思っています。 学校が第一義的に責任を持つことへのリスクを感じています。 日ごろの避難訓練（引渡し訓練など）を含め、地理的な側面も理解し合う学びや、共通言語を持つ機会があればよいと考えます。
-------------------	--

第2期石巻市教育振興基本計画実施計画事業調査票

番号	8	事業名	コミュニティ・スクール推進事業			事業番号	76
第2期石巻市教育振興基本計画	施策目標	4 地域ぐるみで子どもを育てる教育活動の推進					
	基本施策	3 開かれた学校づくりの推進					
	施策の展開	2 地域の声を生かした学校運営の充実					
【総合計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	5 豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち					
	基本施策	2 社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実					
	施策の展開	1 学校教育の充実を図る					
	事業名	コミュニティ・スクール推進事業					
担当課	学校教育課		事業期間	R1 ~		摘要	継続
事業概要（目的）							
市内の小・中学校、市立高等学校に、学校運営協議会を設置することによって、学校や子供たちが抱える課題や、家庭・地域社会が抱える課題を地域ぐるみで解決し、子供達の健やかな成長と質の高い学校教育の実現を図るため、地域の力を学校運営に生かす「地域と共にある学校づくり」を進める。							
事業効果							
学校運営協議会を設置し、「地域と共にある学校づくり」を推進することによって、学校運営に対する地域住民や保護者の積極的な参画が促すことができ、学校や地域の課題解決、学校における教育内容の質的向上を図ることができる。							
現状と課題							
既に導入済みの学校では、学校運営協議会委員が学校運営へ参画することにより、地域人材や教育資源の活用が促進され、教育内容の質的向上が図られている。学校と地域のより円滑な連携、教育内容の充実のために「地域学校協働本部」の整備、地域支援コーディネータの人材発掘が必要である。							
事業の実施内容			年度別事業計画				
			R4	R5	R6	R7	R8
コミュニティ・スクール検討推進委員会の実施			実施				→
学校評議員から学校運営協議会への移行			実施	→			
学校運営協議委員による学校関係者評価			実施			→	
指 標 名		単位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値
活動指標		回	—	—	200	192	192
学校運営協議会開催回数							
成果指標		%	—	—	—	80	85
学校と地域が関わる機会が増えたと思う学校の割合							
備考	令和6年度において活動指標及び成果指標を見直し 令和7年度において成果指標を見直し						

実施状況及び評価 (CHECK)									
令和7年度の事業実施状況			市内全小・中・市立高校が学校運営協議会を設置し、地域とともにある学校づくりを推進した。 石巻市コミュニティ・スクール検討推進委員会を4回実施し、石巻市全体の取組について推進計画を検討した。また、11月には推進フォーラムにおいて、実践事例の発表やコミュニティ・スクール推進のための講演会等を行った。						
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	学校運営協議会開催回数						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	回	—	—	200	192	192	A
		実績	回	—	107	209	196		
		達成率	%	—	—	104.5	102.1		
	成果指標	指標名	学校と地域が関わる機会が増えたと思う学校の割合						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	%	—	—	—	80	85	A
		実績	%	—	—	—	100		
		達成率	%	—	—	—	125.0		
【事業評価基準】 達成率が100%以上・・・A 達成率が80%以上100%未満・・・B 達成率が60%以上80%未満・・・C 達成率が40%以上60%未満・・・D 達成率が40%未満・・・E 事業を実施できなかった・・・F									
【事業全体の評価】 ※活動指標及び成果指標の達成状況から、事業全体の総合評価を上記の評価基準により、A～Fのいずれかを記載								総合評価	
								A	
取組の成果及び評価の理由			学校運営協議会の開催回数に関しては、各運営協議会につき年4回の実施を計画し、9割以上の学校・地域が実施したことにより目標値を上回った。また、協議会の熟議を基に行われた学校づくりの実践により、学校と地域のつながりが深まり、関わりを感じる割合が高まった。						
課題・改善 (ACTION)									
事業を進める上での課題			各学校における運営協議会の熟議の充実とともに、検討推進委員会等で情報交換を行いながら更なる推進を図る必要がある。 また、学校運営協議会の設置と一体的に進める必要のある地域学校協働活動（地域学校協働本部の設置）を生涯学習課と連携を取りながら推進する。						
今後の対応方針			コミュニティ・スクール検討推進委員会やフォーラム等により、コミュニティ・スクールの理念や活動を発信し、広く地域住民の参加・協力を求めていく。						
令和8年度の見込み			新規 継続 (拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了						
事業費（決算額）			年度	R4	R5	R6	R7	R8	
			金額（千円）	4,461	4,636	5,801	5,837		

学識経験者からの意見	【齊隆氏】 学校運営協議会が全小・中・高校で設置されたことから、今後の活動の充実を期待します。そのためには、教員がその必要性を実感することが必要と考えます。その際、地域に対する学校からの情報発信・双方向での情報交流が重要です。紙媒体での広報誌に限らず、デジタル化を念頭に I C Tを活用した情報発信等も検討されることを期待します。 また、企業に対して、保護者が学校行事へ参加した場合には、社会貢献の一つとしてとらえるよう教育委員会から呼びかけることを検討していただきたいと思います。 学校と地域が一体となって、子育て・教育に取り組むための大きな枠作りを期待します。 そのため、今後、生涯学習課と学校教育課の連携がさらに重要となりますので、必要な人員配置を求めます。 【湯目隆之氏】 コミュニティ・スクールの最大の意義は、学校が地域と連携して子どもたちの成長をサポートする点にあります。石巻市内の全小・中学校及び市立高等学校に学校運営協議会が設置され、地域とともにある学校づくりが推進されていることは大変意義深い状況です。 こうした取組の中で、活動指標である「学校運営協議会開催回数」は達成率が 1 0 0 % を超え、加えて「学校と地域が関わる機会が増えたと思う学校の割合」という成果指標も目標値を大きく上回る達成率となっています。 これらの結果は、コミュニティ・スクールの意義がしっかりと理解され、実践されていることを示しています。 今後の課題としては、地域住民に様々な取組について広報するとともに、各校で進められている取組について、お互いに情報交換をすることで、更なる推進を図ることを期待しています。 また、地域の住民や企業、行政などが学校運営に参加することで、学校だけでは解決できない課題に対し、多角的な視点や支援が得られることから、地域学校協働本部の設置を今後一層進めていかれることに期待します。 【高橋由佳氏】 コミュニティ・スクールは、学校ごとに個性を出しつつ活動していると思われませんが、客観的に見ると地域とのつながりがどうしても希薄な状況に見えてしまいます。 教員や大人側の描く計画案が多いように感じますので、児童生徒が主体的に考えて、地域住民や企業などと連携を図りながら作り上げていく、プロセスを充実させていくべきと考えます。 また、この事業には、卒業生（O B ・ O G）なども委員として活動することも重要だと考えます。
-------------------	--

第2期教育振興基本計画実施計画事業調査票

番号	9	事業名	読書環境整備事業			事業番号	82	
第2期石巻市教育振興基本計画	施策目標	5 豊かな地域社会を育む生涯学習の推進						
	基本施策	1 生涯学習の推進						
	施策の展開	2 学習環境の充実						
【総合計画における位置づけ】								
総合計画	基本目標	5 豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち						
	基本施策	5 豊かな地域社会を育む生涯学習の推進						
	施策の展開	2 読書の推進・環境を整備する						
	事業名	読書環境整備事業						
担当課	図書館	事業期間	H20	～	摘要	継続		
事業概要（目的）								
図書館法第3条に基づき、必要な資料を収集し市民の利用に供する。公立図書館は「図書、記録その他の必要な資料・情報を収集、整理、保存して、市民の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するとともに、市民の教育と文化の発展に寄与する」ことを目的としている。これらを踏まえ、市民の要望に応えるため、魅力ある図書資料や情報の収集・提供に努め、図書館サービスを推進する。								
事業効果								
利用者にとって魅力ある資料を収集、整理、保存し、利用に供することで、市民の知識や思考を助け、充実した市民生活を送る支援を行う。乳幼児・児童への読み聞かせ等の各種おはなし会を開催することにより、乳幼児期からの読書活動を推進し、人生をより深く生きる力を身に着けることのできる環境を作る。								
現状と課題								
石巻市の一人あたりの資料費は94.20円と、県内平均148.67円、全国平均211.52円をいまだに大きく下回っており、最新の社会情勢や市民の利用ニーズに対応しうる資料を提供するため持続的な資料費確保が必要となっている。また、乳幼児期からの読書活動の推進や多様化する社会に即した新たな機能が図書館に求められており、より一層サービスの充実を図っていく必要がある。								
事業の実施内容				年度別事業計画				
				R4	R5	R6	R7	R8
図書、記録その他の資料の収集・整理・保存の実施				実施				
生涯学習の場として資料・情報を提供				実施				
児童書及び子ども読書活動推進に係る図書の充実				実施				
学校支援事業による学校図書室との連携				実施				
指 標 名		単位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値	
活動指標		人	-	-	-	135,500	139,500	
利用者数（図書館入館者数）								
成果指標		人	42,610	51,042	51,872	52,645	52,705	
貸出者数								
備考	令和7年度において活動指標、成果指標の目標値を見直し							

実施状況及び評価(CHECK)									
令和7年度の事業実施状況			・テーマ展示：45回 ・企画展、講座等：12回 ・読書推進事業Ⅰ（おはなし会等）：112回 ・読書推進事業Ⅱ（えほんびより）：35回 ・施設見学、インターンシップ：22回 ・遠隔地サービス（出張図書館わたのは、へびた、ささえあいセンター）：23回						
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	利用者数（図書館入館者数）						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	人	-	-	-	135,500	139,500	B
		実績	人	-	-	-	133,465		
		達成率	%	-	-	-	98.5		
	成果指標	指標名	貸出者数						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	人	42,610	51,042	51,872	52,645	52,705	A
		実績	人	50,982	51,812	52,585	57,460		
		達成率	%	119.6	101.5	101.4	109.1		
【事業評価基準】 達成率が100%以上・・・A 達成率が80%以上100%未満・・・B 									

学識経験者からの意見	【齊隆氏】 貸出者数が年々増加しており、多様な事業の実施による地道な活動が成果に繋がっていると考えられます。 利用者には一定のリピーターがいると思われしますので、新規開拓のために、石巻市の図書館としての特徴を発揮し、より広く発信していただきたいと思います。例えば、震災の記録の保存・研究・展示・伝承について、他の施設もありますが、石巻市としての中核となる独自性を持たせることが大切です。いわゆる「知の倉庫」としての役割を発揮していただきたいと思います。 また、読書活動のアウトプットの一つとして、読書感想文や読書感想画に取り組む市民への積極的な支援を検討されることを期待します。 併せて、技能実習生の利用の促進による国際化・多様化への対応、酷暑に対する避暑機能の充実、電子図書の貸出し、避難所としての運営なども検討していただきたいと思います。 また、不登校児童生徒が安心して利用できる環境づくりについても、ぜひ進めていただきたいと思います。 今後も、市民のニーズに応じた企画展、特別展の実施に取り組まれることを期待します。 【湯目隆之氏】 「事業を進める上での課題」として挙げられているとおり、利用者の年齢や背景、興味が多様化している中で、より多くの市民に利用してもらうためには、提供するサービスの改善を続けていく必要を感じます。しかし、限られた予算や人員の中で、すべての利用者に満足のいくサービスを提供することは難しいことでもあると認識しています。 このような現状の中、利用者数をコロナ禍後の令和6年度の実績から3%の増加を見込んで設定した令和7年度の目標値は妥当な値だと考えます。そして、令和7年度の達成率は98.5%となっており、まずまずの実績を上げたものと考えられます。 さらには、令和7年度の貸出者数が令和6年度に比べて約5,000人の増加となったことは、出張図書館やおはなし会などの継続した活動の結果であると考えます。 令和8年度には、「ささえあいセンター」においての読書環境を整えることに加え、当館のWi-Fi環境の整備も進むことから、更なる利用者増につながるものと期待しています。 【高橋由佳氏】 遠隔地サービスによる出張図書館が市内圏域で広く実施されることが、子どもたちへの平等な学びの場の提供につながるのではないかと思います。 また、ささえあいセンターのアクセスの良さなども踏まえ、図書館の別館として設置を検討してはどうかと考えます。 さらに、社会福祉協議会や子ども支援センター「いっしょ」などが併設されていることで、気になる子どもや家庭をキャッチしやすい環境、相談のしやすさなども考えられる場所として機能することを期待します。
-------------------	---

第2期教育振興基本計画実施計画事業調査票

番号	10	事業名	石巻市博物館企画展・特別展事業			事業番号	86
第2期石巻市教育振興基本計画	施策目標	5 豊かな地域社会を育む生涯学習の推進					
	基本施策	2 文化芸術活動の推進					
	施策の展開	1 文化芸術に触れる機会づくりの推進					
【総合計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	5 豊かな心を育みいのちを未来につなぐまち					
	基本施策	5 豊かな地域社会を育む生涯学習の推進					
	施策の展開	1 生涯学習環境を強化する					
	事業名	石巻市博物館企画展・特別展事業					
担当課	博物館		事業期間	R3 ～		摘要	継続
事業概要（目的）							
企画展を通じて、博物館所蔵資料や石巻市に関する調査研究の成果を踏まえ、学術的な視点から石巻市の魅力を市民にわかりやすく発信し、市民の地域に対する理解を深める。また、時宜に合った特別展を開催することで、市民の知的探究心を満たす。							
事業効果							
企画展・特別展を開催し、市民に文化・芸術に触れる場を提供することで、石巻市の歴史・文化に対する理解を深めるとともに、心の豊かさの醸成が図られる。							
現状と課題							
市民が地域の歴史・文化を理解し、自分自身のルーツを確かめることは、地域で生きていくことのモチベーションにつながるとともに、心の豊かさを抱くきっかけになると考える。石巻市博物館において展示活動を開催することで、市民に石巻市の魅力を伝え、市内から地域を盛り上げていく必要がある。							
事業の実施内容			年度別事業計画				
			R4	R5	R6	R7	R8
特別展又は企画展の開催			実施				
指 標 名		単位	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値	R8目標値
活動指標		人	—	5,100	5,000	6,000	6,500
観覧者数							
成果指標		%	81.0	82.0	83.0	90.0	90.5
展示内容に対する満足度							
備考	令和5年度において活動指標を見直し 令和6年度において活動指標の目標値を見直し 令和7年度において活動指標及び成果指標の目標値を見直し						

実施状況及び評価(CHECK)									
令和7年度の事業実施状況			・自主企画「収蔵品展」 会期：4月12日（土）～5/11（日） 観覧者：1,630人 ・第11回企画展「近代を生きた東北ゆかりの画家たち」 会期：5月24日（土）～7月13日（日） 観覧者：875人 満足度93.0％ ・第12回特別展「アルフォンソ・ミュシャ展」 会期：7月26日（土）～8月31日（日） 観覧者：4,210人 満足度：95.0％ ・第13回企画展「宮城に生きる民俗」 会期：10月25日（土）～12月14日（日） 観覧者：913人 満足度：89.0％ ・第14回企画展「樺山祐和と描く森と海美術展」 会期：1月10日（土）～3月15日（日） 観覧者：874人 満足度：87.0％						
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	観覧者数						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	人	－	5,100	5,000	6,000	6,500	A
		実績	人	4,451	9,854	6,876	8,502		
		達成率	％	－	193.2	137.5	141.7		
	成果指標	指標名	展示内容に対する満足度						
			単位	R4	R5	R6	R7	R8	評価
		目標値	％	81.0	82.0	83.0	90.0	90.5	A
		実績	％	88.3	91.1	85.8	91.0		
		達成率	％	109.0	111.1	103.4	101.1		
【事業評価基準】 達成率が100％以上・・・A 達成率が80％以上100％未満・・・B 達成率が60％以上80％未満・・・C 達成率が40％以上60％未満・・・D 達成率が40％未満・・・E 事業を実施できなかった・・・F									
【事業全体の評価】 ※活動指標及び成果指標の達成状況から、事業全体の総合評価を上記の評価基準により、A～Fのいずれかを記載								総合評価	
								A	
取組の成果及び評価の理由			活動指標である観覧者数に関しては、特別展の影響が大きかった。企画展に関しては美術、民俗、美術と、比較的なじみやすい題材であったが観覧者数の伸び悩みが見受けられたので、今後、周知方法に工夫が必要である。 なお、第13回、第14回の企画展は、武蔵野美術大学との連携事業であり、今後も石巻市及び近隣の中高生とともに活動することで若年層への周知等、取組に期待することから評価を「A」としたものの。						
課題・改善(ACTION)									
事業を進める上での課題			開館以降、歴史関係の観覧者数が伸び悩み、美術関係については、一定の成果が見受けられた。今回は美術関係事業が多いものの伸び悩んだ状況である。広報関係については、継続的に取り組む必要があると考えている。 また、特別展については、企画会社のパッケージ購入で高額になりやすいことから、外部からの支援、補助金の活用を検討すべきと考える。						
今後の対応方針			広報関係に関しては、予算内での有効活用は当然として、未だ試行錯誤の状況にある。SNS等の発信頻度を多くする等、工夫をしていく。 展示の内容については、アンケート結果の精査を行い、より多くの観覧者と高い満足度を目標としていく。						
令和8年度の見込み			新規 <u>継続</u> (拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了						
事業費（決算額）			年度	R4	R5	R6	R7	R8	
			金額（千円）	6,786	7,479	9,142	15,289		

学識経験者からの意見	【齊隆氏】 観覧者数は展示企画により増減しており、石巻市の博物館としての強みを発揮した独自の企画展を開催してほしいと思います。 開かれた社会教育施設として、児童生徒への探究学習の支援や一般市民の知的好奇心への取組が必要だと思います。例えば、資料の中でも貴重な「毛利コレクション」を広く認知してもらうための活動を積極的に進められることを期待します。他にはない、本館だけの強みを発信してほしいと思います。 さらには、震災遺構に保存されている資料との共通点、相違点を確認しながら、石巻市としての中枢機能を図書館と連携して、保存・修復・展示に努めていただきたいと思います。市民が持つ資料等の収集、展示等も丁寧に進めてほしいと思います。その際、クラウドファンディングを利用するなどして財源確保を進めることも検討していただきたいと思います。 併せて、若い世代の視点を生かすために、小・中・高等学校の児童生徒及び大学生の職場体験、インターンシップ研修を積極的に受け入れ、若い世代の視点も取り入れながら、積極的に広報活動にも取り組んでいただきたいと思います。そして博物館キャラクターやシール、クリアファイルなどのオリジナルグッズの作成・販売についても検討し、そのデザイン募集を市内の小・中・高等学校の児童生徒及び大学生を対象とすることで、博物館への関心が高まると考えます。 なお、観覧者を確保するため、博物館友の会を設立するなど、リピーターの利便性を図る取組も有効であると考えます。 【湯目隆之氏】 活動指標である「観覧者数」は、特別展の内容による影響を受けながらも、年々増加傾向が続いています。令和7年度には達成率141.7%を記録し、石巻市民だけでなく他の市町村からも認知度が高まっていると考えられます。 令和7年度の年齢別入場者数を見ると、10歳代の割合は10%と他世代に比べてやや低い傾向にあります。令和8年度には児童生徒を対象とした企画が予定されていることから、学校行事と連携し積極的な広報を行うことで、より多くの若年層の来館が期待されます。 成果指標である「展示内容に対する満足度」は、令和7年度までの4年間を通じて、すべて100%を超える達成率となっており、企画内容が来館者に十分満足いただけるものであったことがうかがえます。 今後の企画内容の広報については、市報をはじめ、地元新聞やラジオ・テレビ、タウン誌への掲載、さらに学校教育課や石巻教育研究会の理科学研究会・図工美術研究会への協力依頼も検討することが有効と考えられます。 【高橋由佳氏】 平日に利用者が少なく、もったいない場所だと感じています。 アクセス面の課題も大きいので、宮城交通バスなどの公共交通機関と協議をしてみる必要もあると思います。 また、博物館そのもののPRをさらに強化していく施策を考えていただきたいと思います。加えて、市内小・中学校の児童生徒には、必ず社会科学習で学びの場として課外授業を実施してほしいと思います。
-------------------	--